

じそんのかね

自尊の鐘



韮崎西中学校 学校だより

2019.12.4. NO20

発行責任者 校長 秋澤英俊

「人を敬い、いつくしみ、自らをたつとび高める」、校訓『敬愛自尊』のもとに、毎朝鳴らされる「自尊の鐘」。今日をどのように過ごし自分を高めていくのか、鐘の音を聴きながら「理想をめざし日に進む」(校歌)、生徒たちの成長の姿をお知らせします。

考え議論する生徒会を一生徒会選挙の取組

期末テストも終わり、いよいよ令和2年度の生徒会役員選挙の活動が本格化してきました。給食中や朝の選挙活動も行われ、明日の立ち会い演説会や明後日の投票日に向けて、各候補やその支持者達の意気込みが感じられます。今年の生徒会役員立候補者はなんと15名、大勢の生徒達が立候補してくれました。今年度の生徒会役員の姿を見て、「自分もやってみたい」「みんなのためにがんばりたい」、「先輩達のようにになりたい」と思った上での立候補だと思い、とてもうれしくなります。



そんな選挙活動の終盤である昨日の放課後、全候補者が「ふれあいホール」に集まり、立ち会い演説会で行われる「候補者による意見交換会」のオリエンテーションと練習を行っていました。明後日は立ち会い演説を行うだけでなく、政治家が選挙前に行う討論会のように、あるテーマに基づきそれぞれの候補者が自分の考えを述べ、聞いている生徒達に判断してもらおうという「意見交換会」が行われます。今年の「選挙管理委員会」が企画した初めての試みです。

昨日のテーマは『「校歌交歓会」は必要か不必要か』というものでした。昨年、今年と2年連続で行ってきた「校歌交歓会」の成果や課題が明らかになる、前向きな「意見交換会」の練習になりました。

何かを始めるときには、そこに必ず目的やそれをやる意義、そして「こうなってほしい」という願いがあります。また、まったく新しいことを生み出し実行していくことはそんなに多くあるわけではありません。いいかえれば、世の中には「0(ゼロ)か100か」、「やるかやらないか」で判断することよりも、むしろ「今あるものをどう改善し、よりバージョンアップしていくのか」という判断の方が多いいいことです。そしてその「どうすればよくなるのか」を考え実行していくことが「伝統をつないでいく」ことなのではないかと思えます。



そういう意味でも、西中の生徒会がこれまで伝統としてつないできた行事・活動をここでもう一度整理し、見直し、考え議論するなかでより良いものにしていくことは、将来大人になったときに活かされる貴重な経験になることでしょう。立候補者のみなさんにはぜひがんばってもらいたいと思いました。明日の「立ち会い演説会」では、聞いている生徒達も各候補者の思いや考えを真剣に聴き、自分だったらどうするかという視点で一緒に考えてほしいと思います。そしてそれこそが「意見交換会」の目的のひとつでもあるのです。

意見交換会の練習

